

今週の為替相場見通し(2024年7月1日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		158.75 ~ 161.27	160.89	159.00 ~ 162.50
ユーロ	(ドル)		1.0666 ~ 1.0746	1.0713	1.0650 ~ 1.0800
(1ユーロ=)	(円)		170.34 ~ 172.44	172.37	171.00 ~ 174.50
英ポンド	(ドル)		1.2613 ~ 1.2702	1.2646	1.2400 ~ 1.2700
(1英ポンド=)	(円)	*	201.17 ~ 203.59	203.40	200.00 ~ 206.00
豪ドル	(ドル)		0.6620 ~ 0.6688	0.6670	0.6600 ~ 0.6760
(1豪ドル=)	(円)	*	105.61 ~ 107.46	107.30	106.30 ~ 107.90

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 為替デリバティブチーム 部坂 洋太郎

(1)今週の予想レンジ: 159.00 ~ 162.50 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

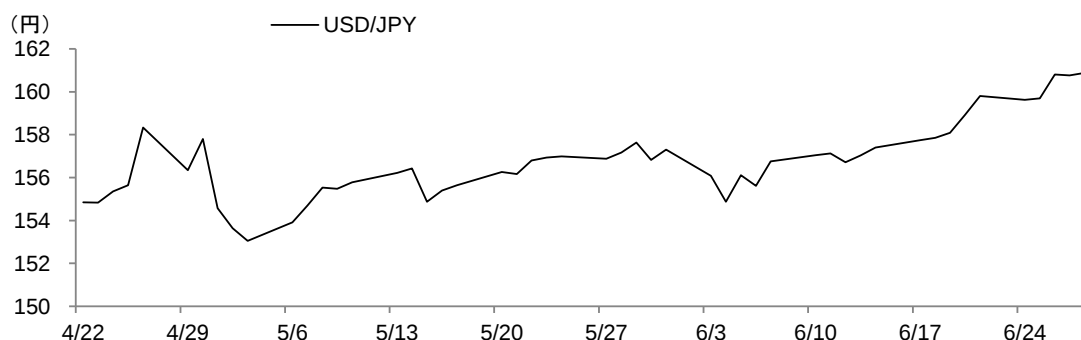
先週のドル/円は、週半ばに160円の節目を突破して、高値圏で引けとなった。週初24日、159.91円でオープンしたドル/円は、東京時間朝方に159.94円まで上昇。欧州時間には特段の材料が無い状況で、突如158.75円まで一時的に下落する場面もあったがすぐさま買い戻され、159.60円を挟んだ推移となりクローズ。25日、ドル/円は、東京時間上値の重い展開となり、一時は159.18円まで下落。米国時間に米6月コンファレンスボード消費者信頼感指数の結果が予想を上回ったことで再びドル買いとなり、159.67円でクローズ。26日、東京時間から実需のドル買いフローによりじりじりとドル高円安が進行。米国時間に米金利上昇を背景に節目の160円を突破。神田財務官による円安牽制発言も特段効果はなく、161円手前まで上昇して高値圏で引けとなった。27日、東京時間は円金利上昇を背景に160.30円台まで下落するも、米国時間には再度円売りの流れとなり往って来いとなった。28日、東京時間の仲値にかけて月末における輸入企業の実需のドル買いフローと見られる動きから161円を上回り、一時161.27円まで上昇。米国時間に発表された米5月PCE価格指数は、ほぼ事前予想通りの結果となるも個人消費支出の伸び率が鈍化したことで年内利下げ観測が若干高まり、発表直後に160.20円台まで下落となったものの、引けにかけて再度円売りが強まり160.89円で越週となった。

今週のドル/円は、引き続き高値をトライする動きを予想する。足許のドル/円相場は、米金利との相関も非常に薄れており、米金利が低下した局面においてもドル買い円売りの動きが止まらない状況となっている。年内1回を予想されている利下げ予測を大きく変えるほどの経済指標が発表されない限り、円売りキャリートレードは継続する展開となるのではないかと。今週は、多くの経済指標の発表を控えており、1日(月)に米6月ISM製造業景気指数、3日(水)に6月に開催されたFOMC議事要旨、5日(金)に米6月雇用統計が発表予定となっている。なお、1か月の短期インプライドボラティリティは5月初以来の水準まで上昇しており、上下伴う大きな値動きには留意が必要。

(3)先週までの相場の推移

先週(6/24~6/28)の値動き:

安値 158.75 円 高値 161.27 円 終値 160.89 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部 為替デリバティブチーム 岩下 義明

(1) 今週の予想レンジ: 1.0650 ~ 1.0800 171.00 ~ 174.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のEユーロは直近の底値近辺でレンジ推移となった。24日、1.0688でオープン。東京時間は動意なく推移するものの、欧州時間に入る頃から予想を下回る独6月IFO企業景況指数を横目に、独金利の上昇に伴って上値を伸ばし、1.0746まで上昇。その後は、米金利が下げ渋った場面で売られる局面もあったが、再び米金利が低下し反発、1.0735でクローズ。25日、欧州時間から欧州株が上値重く推移する中、独長期金利が低下する動きに追随して下落。米国時間の米金利上昇が一段と重しとなり一時1.0691まで下落するものの、その後は売りが一服し若干値を戻した。26日、米金利上昇やECBのレーン理事のハト派発言を受けて軟調に推移し、一時は1.0666を付けるも、独金利が反転上昇する動きに買い戻しが入り小幅反発。しかし長続きせず、1.0681でクローズ。27日、欧州時間までは動意薄く推移していたが、米国時間の米1～3月期GDP(確報)の個人消費が下方修正されたことや、米新規失業保険申請件数が予想を上回ったことを受けてドル売り一辺倒となり、1.0726まで上昇。その後はややドルが買い戻され1.0704でクローズ。28日、1.0700を挟んで推移したのち、米国時間に独金利が上昇した動きを追い1.0724まで上昇。その後はこの日の高値付近で推移し1.0713で越週。

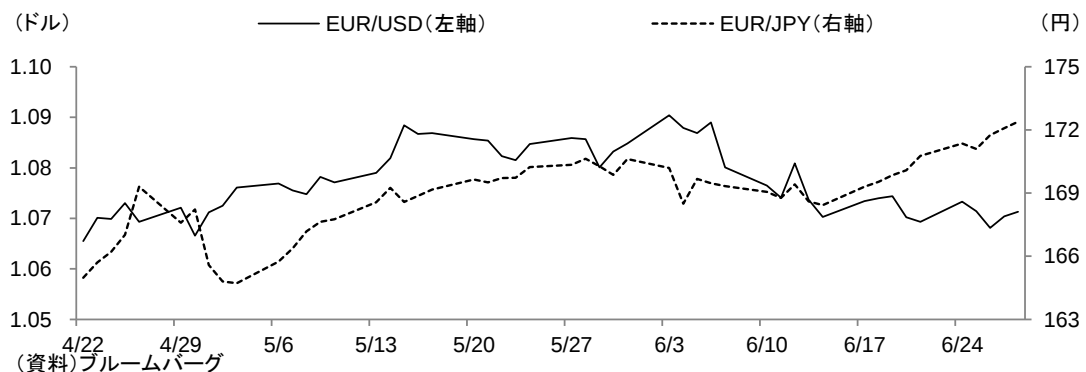
今週のユーロは、ヘッドライン等に振らされる神経質な動きに警戒したい。経済指標としては、1日に独6月CPI・米6月ISM製造業景況指数、2日にユーロ圏6月CPI、3日に米6月ADP雇用統計、4日に6月ECB会合議事要旨、5日に米6月雇用統計を控えている。経済指標に目を向けてみると、先週発表されたカナダ5月CPIや豪5月CPIが上振れしており、インフレの目標への回帰の道筋が一筋縄ではいかないことが示されている。特にカナダは、今回のサイクルの中で6月にG7で先陣を切って利下げを行った国であり、その翌日に事前のコンセンサス通り利下げしたECBにおいても、仮にCPIが上振れとなれば今後の利下げ見通しに対して実効性が疑われやすい。政治的リスクとしては、フランスの下院選挙、バイデン米大統領の再選に向けての進退が考えられる。30日に行われたフランス下院第一回投票では極右政党の躍進が報道されているが、多くの選挙区では7日の第二回投票に持ち越しとなる見通し。極右政党は、一般の有権者に向けて従来の過激な主張を抑えているという報道もあり、極右政党の大躍進がそのままユーロ圏全体の不安定化によるユーロ安には結びつかず、独仏金利スプレッドのさらなるワイドニング程度で収まるものと考えられる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/24～6/28)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0666 高値 1.0746 終値 1.0713

(対円) 安値 170.34 高値 172.44 終値 172.37



3. 英ポンド

欧州資金部 中島 将行

(1) 今週の予想レンジ: 1.2400 ~ 1.2700 200.00 ~ 206.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンドは対ドルで続落。特に大きな材料はなく、米経済堅調、利下げ期待後退を背景とするドル高や、フランスの政治情勢の不透明感といった外的要因が波及した面が大きいだろう。6月26日には英国のスナク首相と最大野党・労働党のスターマー党首が、7月4日の総選挙前の最終回となる1対1のテレビ討論を実施している。両党首は、国民保険サービス(NHS)の長期にわたる順番待ちや、小型ボートで英国に渡る人々(不法移民)の増加について論戦を戦わせるも、世論調査における労働党優位の状況は揺らいでいない。イングランド銀行(BOE)は6月27日に公表した金融安定報告書の中で、住宅所有者は固定金利住宅ローンの満期到来に伴い、より高い金利の契約に乗り換えなければならず、一般的なケースで毎月の住宅ローン返済額は約180ポンド、約28%増加するという試算を示している。もっとも、支払い増がローン支払の延滞率の増加につながるとは見込まれていない。賃借人に比べて持ち家保有者の所得が高いことが一因と見られる。実際に、ロンドンでの住宅購入者の平均年間所得は11.9万ポンド(約2400万円)と高い。支払い増がローン支払の延滞率の増加につながるとは見込まれていないことを踏まえれば、住宅ローンの支払い増がBOEの金融政策に与える影響は限定的と見られる。むしろ、住宅価格の高騰や、住宅ローン金利の負担増大に伴い、一般的な所得の層(特に若年層)にとって家が手に届かない状況になっていることが、英経済にとって重大な問題のように思われる。

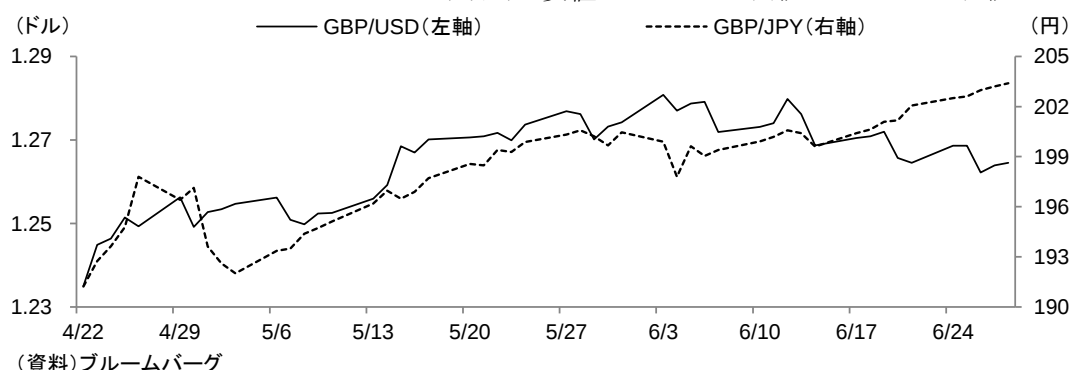
今週1週間は、フランスの政治情勢の不透明感が欧州金融市場全体の重石となり、ポンドも対ドルでは上値の重い展開となろう。7月4日(木)には英国でも総選挙を控えるが、各種世論調査から労働党の圧勝と保守党からの政権交代が確実視されており、サプライズの余地は小さいだろう。ただし、国民保険サービス(NHS)改革や、移民管理、グリーンエネルギーへの移行など、労働党が国民に改善を約束している政策は、いずれも資金が必要となる。「影の財務相」レイチェル・リーブス氏らは増税の可能性を否定しているものの、どこに財源を求めるのか、という問題は残る。総選挙後は英国の財政状況に改めて市場の関心が集まるだろう。来週は、7月1日(月)から3日(水)まで、ポルトガル・シントラで開かれるECBフォーラムも注目される。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/24~6/28)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2613 高値 1.2702 終値 1.2646

(対円) 安値 201.17 高値 203.59 終値 203.40



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6600 ~ 0.6760 106.30 ~ 107.90 円

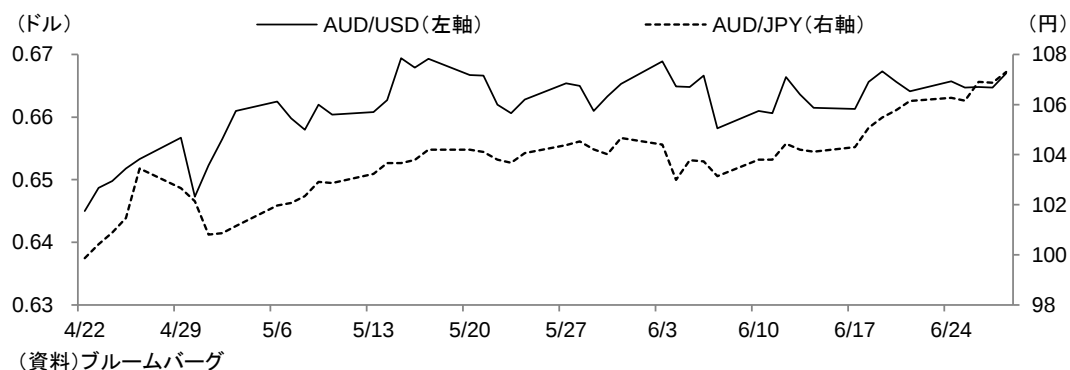
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは0.66台でもみ合い。24日、0.6635近辺で取引開始後、じりじりと売り進まれて一時0.6627まで下落した後、上昇に転じた。デューリーSF連銀総裁が「今後労働市場が減速すれば、失業率の上昇につながる可能性がある」と発言したことに反応し、米金利が低下すると豪ドルは買いが優勢となり、0.6660近辺まで上昇して引け。25日、株価がしっかりと推移する中、序盤は小高く推移。豪6月ウェストバック消費者信頼感指数が前月比+1.7%上昇し、消費者心理の改善が見られたことも豪ドルを支え、一時0.6672まで上昇。その後、米4月住宅価格指数が上振れたことに加え、米6月コンファレンスボード消費者信頼感指数が予想を上回ったことを受けドル買いが優勢となると、豪ドルは下落し0.6650近辺で引け。26日、注目された豪5月CPIは前年比+4%と4月の+3.6%から加速し、半年ぶりの高い伸びを記録。CPIトリム平均値も前年比+4.4%上昇し前月の+4.1%から加速し、市場が織り込む年内利上げ確率は40%程度まで上昇した。豪国債利回りも大きく上昇し、豪ドルは週高値0.6688まで買い進まれた。ドル/円が1986年来の高値まで上昇する中、神田財務官が市場を牽制するも円売りに歯止めがかからず。本邦当局による介入再開への警戒感が高まる中、米国債売り(米金利高)を背景に、豪ドルは売りが優勢となり0.6650近辺まで低下して引けた。27日、豪金利の上昇などを背景に序盤は買いが優勢となり、0.6673まで上昇した後、月末のリバランス・フロー等が持ち込まれて反落。米国時間に発表された米1~3月期個人消費が下方修正され、米失業保険継続受給者数が予想を上回る等、米経済減速を示す結果が発表されると一旦買いで反応する局面もあったが、直ぐに売り戻されて0.6650近辺で引け。28日、特段材料がない中、ドルが全般に強含み、豪ドルは一時0.6620まで下落。注目された米5月PCEコア価格指数は前月比+0.1%、前年比+2.6%と市場予想と一致する結果に。その後発表された米6月ミシガン大学期待インフレ率も、1年先、5-10年先共に前月から低下し、総じて年内利下げ観測が高まり、ドル安の流れに。豪ドルは0.6684まで上昇したが、米株の下落に頭を押さえられて0.6670で越週。

今週の豪ドルは底堅い値動きを予想する。今週は2日(火)RBA議事要旨、パウエルFRB議長パネルディスカッション、3日(水)豪5月小売売上高、米6月ADP雇用統計、FOMC議事要旨、4日(木)豪5月貿易収支、5日(金)米6月雇用統計などの発表が予定されている。豪ドルは先週0.6680近辺にある抵抗線を何度かトライしては上抜けに失敗。注目されていた米5月PCEコア指数は順調に低下していることが確認されたものの、トランプ氏とバイデン米大統領によるテレビ討論会でバイデン大統領の印象が振るわなかったことから、トランプ氏返り咲きでインフレ再燃とのシナリオが意識され、方向感が定まらない値動きが続いている。週明けの豪ドルは抵抗線近辺で取引開始されており、再度上抜けトライとなるか値動きに注目したい。尚、豪ドル/円は2007年来高値である107.40円近辺で取引されているが、本邦当局による介入には警戒が続いており、介入が入ればクロス/円に牽引される形で豪ドルも瞬間的に大きく振れる可能性がある。ヘッドラインには注意を払いたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/24~6/28)の値動き: (対ドル) 安値 0.6620 高値 0.6688 終値 0.6670
(対円) 安値 105.61 高値 107.46 終値 107.30



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。